

平成29年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

研究テーマ「主体的・対話的で、深く学ぶ児童の育成 ～安心・安全で、自治的な学級づくりを通して～」 米子市立 啓成小学校

スーパーバイザー：(所属) 岡山大学 (氏名) 佐藤 暁 (職名) 教授

1 はじめに

対話的な学びについて研究を進めてきた中で、その目的がはっきりしてきた。それは、大雑把に分けると2つになる。1つは、学びを深めること、そしてもう1つは、他者と問題を解決することである。前者は、教科の力を高めることであり、後者は学び方、問題解決の方法を身に付けることである。

また、その目的を達成するため、言い換えると対話的な学習を機能させるためには、いくつか必要な条件を満たす必要があるとわかってきた。

1つ目は、段階的に学び方を身に付けていくことである。

児童が他者と協働することで学習を進める方法を理解していなければ対話的な学びは機能しない。そのため、少人数の形態から学び方を段階的に指導していく必要がある。

2つ目は、何を学ぶかということと考えるための手がかりを子どもたちが理解していることである。

対話的な学びで学ぶ内容を焦点化することと、問題解決に必要な知識や技能を活用できる力が必要である。前者は、その授業で対話的な学びに取り組む前に共通理解を図ることが大切である。後者は対話的な学びに取り組む前に子どもたちが身に付けていることが必要である。そう考えると、目的に応じて、対話的な学びと一斉指導の使い分けを考えていく必要があると言える。

3つ目は、良好な人間関係が形成されていること、学習規律が整っていることなどの学級の状態である。

学級の状態が良好である場合、対話的な学習は機能し、学びが深まる。しかしながら、学級の状態が良くない場合、機能しづらくなる。つまり、対話的な学習は、学級づくりに支えられているところが大きいと言える。さらに、主体的な学習も良好な学級の状態に支えられる。

ただし、逆に対話的な学びによって関係性がつくられるという側面もあり、良好な学級の状態が学習によって促進されることも忘れてはならない。

以上のような経緯があり、今年度は、学級づくりに重点を置いて研究を進めることにした。

2 研究のねらい

- 主体的・対話的で深い学びを促進する学級づくり
- 主体的・対話的で深い学びによる学級づくりの促進

3 研究内容

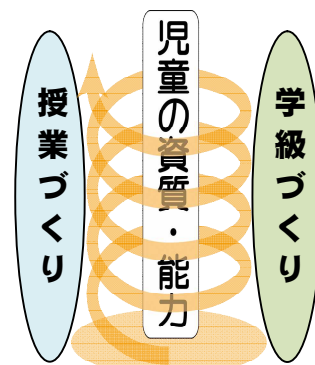
(1) 安心・安全な学級づくり

自治的な学級づくり

①安心・安全な学級づくりのための手立て

- ・教師と児童の関係づくり…子どもたちのよさによく注目し、よくほめる。
- ・児童と児童の関係づくり…原則1時間に1回以上、子どもたちが関わる時間を設定する。
- ・ルール・マナー指導…東山中学校区学習のきまり・校則・言葉の指導
- ・自己有用感、自尊感情を高める取り組み…「よいことみつけ」に準ずる取り組み

☆上記4項目について各学級で例示以外の実践にも取り組む。



②自治的な学級づくりのための手立て

- ・各学年・学級のゴールイメージ(学年・学級経営案)と学級目標の活用
- ・学級力レーダーチャートの活用(5月中旬・7月初旬・9月初旬・11月初旬・1月中旬)

③全職員で、授業公開学級の学級づくりにおける課題解決のための手立てを協議する。

④夏期研修で、学級担任全員が学級づくりについての実践報告をする。



(2) 授業づくり

目的に応じた対話的な学習形態と主体的な学びの促進
授業を支える教師の技術

- 対話的な学びを促進する手立て…目的に応じた学習形態
- 主体的な学びを促進する手立て…魅力的な課題設定、目的を意識した学習活動
- 教師の働きかけについて

4 スーパーバイザーによる指導助言

○学級づくりにおいて

- ・雰囲気づくり…

あたたかい支持的雰囲気、問題解決に向かう主体的な雰囲気、静かな環境で学ぶ雰囲気(教師の声のトーンも含めた環境づくり)

○授業づくりにおいて

- ・授業の緩急…

テンポよく進めるところと、子どもたちがじっくり考える時間の45分間内のバランス。授業のポイントとなる学習活動の十分な時間の確保。

- ・授業で満足感…

算数の場合、適用題を通して「できた」を実感する。不全で終わらない授業。子どもががんばったこと、言いたいことを取り上げる。そのためにこどもをしっかり観る。子どもの声を聴く。

- ・協同学習は、「きき(聞き、聴き、訊き)合い」

出発点は、「わからないことを訊く」

わからない子は、何が分からないか分からない。

訊ける環境にあるか。



○子どもの事実から語り合う授業研…学びの軌跡(学びの姿)と子どもの育ち

→グループで担当を決めて子どもの姿を観察。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- 学級経営案の活用により、計画を確かめながら学級経営することができた。
- 学級づくりのための4項目は、安心・安全な学級づくりにつながった。
- 学級力会議に取り組むことで、児童が自分たちの学級をつくる意識が高まった。
- 対話的な学びが、学級づくりにつながった。
- 算数の学習では、適用題ができる体験が達成感や満足感となり、それが次への意欲や主体性の拡散につながるということがわかった。
- 全職員で学級づくりについて協議したり、実践報告したりすることにより、学級づくりに関する考えや取り組みについての理解を深めることができた。

○ジョブ・シャドウイングによってじっくり深く学ぶ機会をもてた。

3. 学級経営の計画と方策

| 中 | 教師主体期 | | 児童主体期 |
|-------------|---|---|--|
| | 1学期 | 2学期 | |
| 【学期ごとの重点事項】 | | | |
| 学級づくり | <ul style="list-style-type: none"> □ルールを守ることやマナーの必要性の理解と遵守。 □当番、提出物等のシステムの定着。 □整理整頓、清潔で明るい環境づくり。 □ほめられる・できるの経験で関係づくり。 □自治的活動の導入。 | <ul style="list-style-type: none"> □ルール・マナーの定着確認、再指導。 □学級力会議、クラス会議による自治的活動の発展。 □行事と学級目標を関連させた取り組み。 □自己決定の機会確保。 | <ul style="list-style-type: none"> □ルール・マナーの確認、再指導。 □児童に任せる学級自治。 |
| 授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> □学習規律の定着。 □みんなで学ぶことの意義理解。 □対話的学習の導入、学び合いの導入。 □全員が「できる」経験と評価による学習意欲の醸成。 □開き方指導、学び方指導。 □学習スタイルの定着。 | <ul style="list-style-type: none"> □学習規律の確認。 □深い学びにつながる対話的活動。 □論理的表現力の育成。 □読解力の育成。 □各教科で表現活動(書く、話す)の充実。 □学力補完。 | <ul style="list-style-type: none"> □学習規律の確認。 □教師介入を必要としない、より主体的な授業づくり。 □学力補完。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの進化、深化 ・学力低位層の学力向上 ・宿題全員提出できる。その上、プラスαでやっている子多数。 ・学級力会議等で改善のための話し合い。 ・N〇当番の機能。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いに肯定的評価(好き・よくわかる)95% ・表現する機会の確保により、表現することへの抵抗感が下がり、力が高まってきている。(できなかった子ができるようになった) ・月例・放課後学習による基礎基本の定着 | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の授業、教室以外での行動・態度 ・発表者の固定化 ・もっと感情を出し、交流する機会を。 ・問題発見・解決能力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の授業、教室以外での行動・態度 ・感情の交流を増やしたい。 ・自ら課題を見つけ、解決のための行動かを回りたい。 | |

(2) 課題

- ▲学級力会議のより有効的な活用
- ▲向上心やさらなる学習への主体性
- ▲対話的学びを活用した深い学びの実現
- ▲学力を保障する取り組み



6 おわりに

《安心・安全で、自治的な学級づくりについて》

学級経営を担う上でまずめざすべきことは、子どもたち一人一人が落ちついて学習や生活ができるなど、学級が安定しているということである。あたり前のことであるが、現在それが難しいとされている。まず学級の安定化を図り、その上で自治的な学級づくりをめざしていこうとしたのが今年度の取り組みである。

今年度「安心・安全な学級づくり」をめざして取り組んだ手立てが大切なことを改めて確認できた。

まずは、教師と児童の関係づくりである。教師と児童の良好な関係を築くことができると、教師の指導が効力を発揮するようになる。逆に教師と児童の関係が崩れてしまうと、発揮しにくくなる。ここでいう教師と児童の関係とは、一人一人個別の関係である。

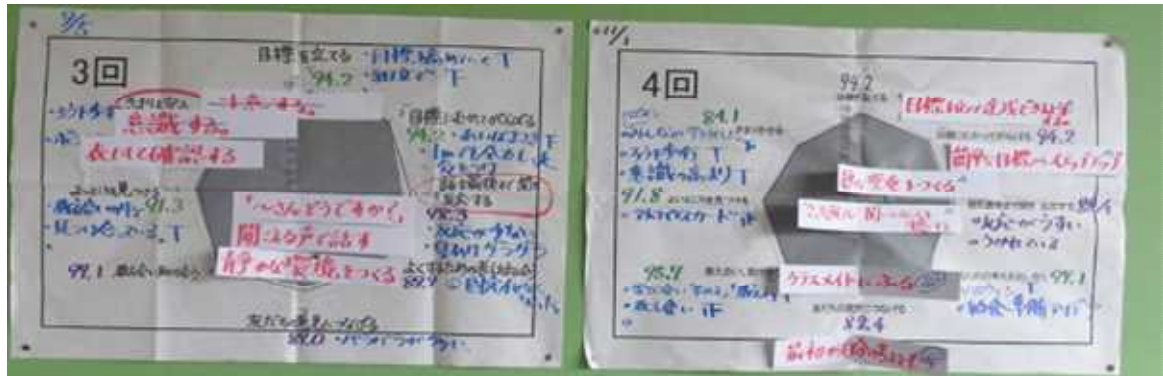
そして、教師と児童の関係だけでなく、児童同士の関係を築くことも大切である。児童同士の良好な関係が児童の安心感につながり、安心感が満たされると成長する意欲につながっていく。

さらに、ルールづくりである。学級には、複数の児童が在籍している。それぞれが考えをもっている中で集団として過ごすためには、ルールが必要となる。ルールを守ることで安全を保つことができたり、安心して過ごしたりすることができる。学級の児童にルールが内在化していることで、安心感が高まり、児童はのびのびと活動したり、表現したりしながら学習に取り組むことができる。

「安心・安全な学級づくり」の取り組みには、具体的な手立てが必要である。目の前の児童に適した手立てによって学級づくりに取り組んでいきたい。

また、安心安全な学級づくりとともに「自治的な学級づくり」をめざしてきた。その手立てとして「学級力会議」の活用を試みた。定期的に行うことにより、児童の経験が蓄積され、話し合いが活発になってきた。学級生活について考える視点をもつことができたことも成果と考えられる。しかしながら、十分に活用しきれていないという課題がある。今後、さらに活用していくためには、PDCAサイクルのCに重点を置き

て取り組む必要があるだろう。学級で話し合えば課題解決することができるという成功体験が、自分たちで学級をよりよくしていこうとする意欲や主体性につながる。そのような成功体験のためには、よい結果を出す必要がある。よい結果を出すためには、児童が話し合いで計画したことを改善していくことが必要となる。自治的集団づくりにつながる取り組みにするためには、Cが肝となるだろう。



《対話的な学びと学級づくりについて》

ALの要素の1つである対話的学びを、今年度は学級づくりの手立ての1つとして位置づけた。前項で述べたように、児童同士の関係づくりは、学級づくりにおいて必須である。しかしながら、放っておいたら1日の間どころか、1週間以上級友と関わることのない子が生まれることもある。特別活動等で関係づくりに取り組むことも有効ではあるものの、それだけで事足りるほど関係づくりは簡単ではない。だからこそ、授業で関係づくりを図ることは量的な側面からも有効である。

また、対話的な学びには目的がある。目的を共有し、それを協働によって達成することで、良好な関係づくりにつながった。その際に、自分が活躍できたり、友だちから助けてもらったりする経験が、自尊感情の高まりにもつながったとも考える。

今後も、授業を通して学級づくりをしていく視点を大切にしていきたい。

《対話的な学びと授業づくりについて》

対話的な学びは学級づくりだけでなく、児童の学力形成のために機能させることが無
論重要である。そのためには、ただ対話的であればよいわけではなく、目的をもった活
動にしなければならない。

今年度は、対話的学びを授業の中で目的を明確にしてに設定し、その効果を検証した。
どのような学習形態・方法がどのような目的に機能するのかをまとめた。

有機的な対話的学びについてさらに深めていきたい。

今年度の学級づくりの研究を生かしつつ、来年度は授業研究に重点的に取り組んでい
きたい。